

理科系の作文技術について

野村幹弘

参考文献：理科系の作文技術 中公新書 木下是雄 1981年

以下にポイントを記す。詳細は原著を参考にされたい。「日本語の作文技術」は文章表現のポイントであり、こちらはレポート（論文）作成のポイントである。

第2章 準備作業（立案）

◎相手は何を書かせたいのか、知りたいのかをとことんまで調べ上げ、考えぬくのが先決問題である。（16p）

化工実験（乾燥・シミュレーション）の場合

1. 一般的なフォーマットでレポートが作成できること。
 - (ア) 実験や計算の目的を理解していること。
 - (イ) 実験や計算手順が伝わること。
 - (ウ) 図や表などがフォーマット通り作成できること。
2. 実験結果や計算結果を考察することで、合理的な思考能力を伸ばすこと。
 - (ア) 記述内容に合理性や一貫性があることを考えること。
 - (イ) 考察内容を相手に伝える技能を積むこと。

◎文章を書く前に結論を出す。（23p）

ただし、最初に出す結論は、筋の通った文章を書くための「一応の目標」であり、書き進むうちに、結論を修正することはかまわない。結論を修正した場合は、文章も最初から書き直すことが望ましい。

第3章 文章の組み立て

◎緒言（序論）では、文章を書く目的を記す。（36p）

1. 本論の主題となる問題は何か。
2. 問題をどういう動機で取り上げたか。
3. その問題はなぜ重要か。
4. 問題の背景はどんなものか。
5. どういう手段によってその問題を攻めようとするのか。

今回は学生実験であり、上記2と3はそれほど重要でない。しかし、卒業研究などの場合、2と3は非常に重要である。

第5章 文の構造と文章の流れ

◎レポート（論文）は読者に向けて書くべきものである。（87p）

著者の思い（苦勞した点）やどんでん返しは必要ない。

第7章 事実と意見

◎仕事の文章を書くときには、事実と意見（判断）との区別を明確にすることが特に重要である。（7p）

例

ジョージ・ワシントンは米国の最も偉大な大統領であった。

ジョージ・ワシントンは米国の初代の大統領であった。

どちらが事実でどちらが意見ですか？

・事実とは、証拠をあげて裏付けすることができるものである。

- ・意見とは何事かにつけてある人が下す判断である。(他の人は同意することもあるれば、同意しないこともある。)

◎事実の記述と意見の記述は異なる。(107p)

事実の記述

1. その事実に関して、その文章のなかで書く必要があるのは、何に何かを十分に吟味する。
2. それを、ぼかした表現を逃がずに、できるだけ明確に記す。
3. 事実を記述する文章は、できるだけ名詞と動詞で記し、主観に依存する修飾語を混入させない。

意見の記述

1. 意見の内容の核となる言葉が主観に依存する修飾語である場合、基本形の頭(私は)と足(～と考える)は省略可能である。
2. そうでない場合は、頭と足を省略してはいけない。

注:「であろう」「と思われる」「と言って良いのではないかと思われる」などは、上記1の理由により、通常は省略されるべきである。

以上